



投資環境

2023年10月11日

IMF 世界経済見通しメモ (2023年10月)

☐ 2023年は据え置き、2024年は下方修正

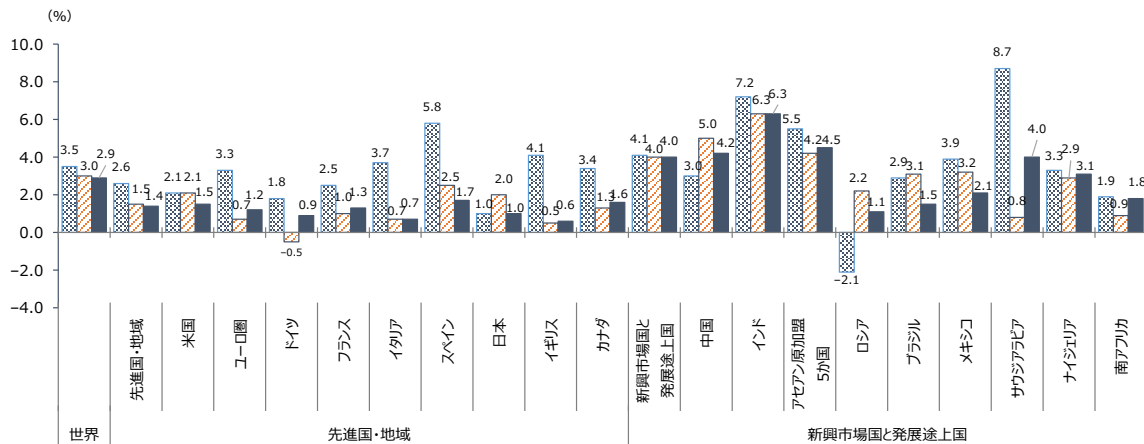
国際通貨基金 (IMF) は10月10日、最新の経済見通しを発表しました。

2023年の世界経済の成長率見通しは3.0%と、7月の予測から据え置いたものの、2024年については0.1ポイント引き下げ、2.9%としました。

先進国の成長率は、米国の勢いが予想を上回る一方、ユーロ圏の成長が予想を下回ることを反映して、2022年の2.6%から2023年に1.5%、2024年に1.4%へ鈍化する見込みです。他方、新興市場国と発展途上国の成長率はやや鈍化し、2022年の4.1%から、2023年と2024年はともに4.0%となる見込みで、2024年については中国の不動産危機を反映して0.1%ポイント下方改定しました(世界および主要国の見通しは図表1、2を参照)。

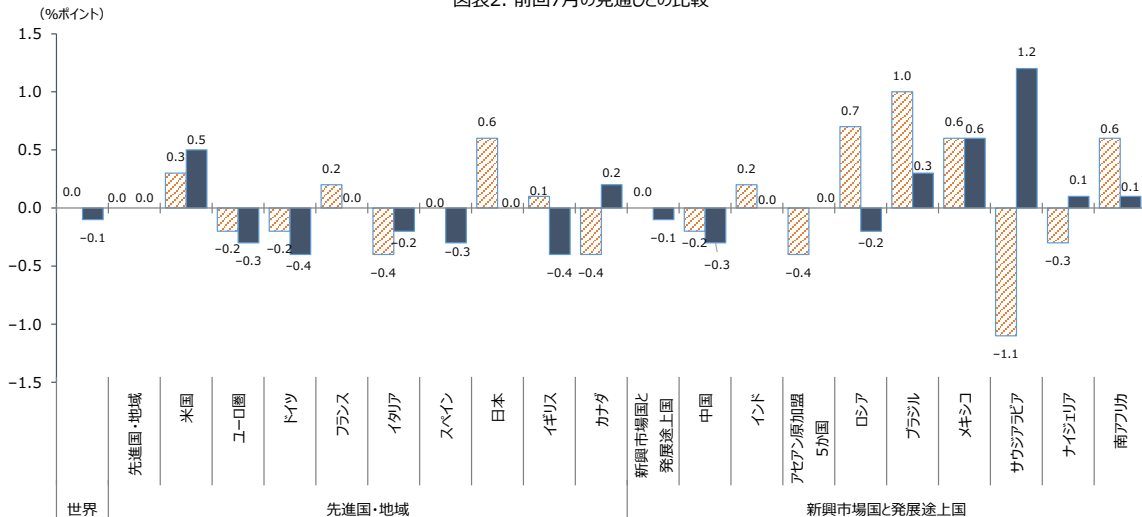
IMFチーフエコノミストのピエール・オリビエ・グランシャ氏は、「戦争によってエネルギーと食料市場が混乱したほか、数十年ぶりの高インフレと闘うための前例のないほどの金融引締めにもかかわらず、経済活動は鈍化しながらも停滞はしなかった。ただ、世界経済はなんとか前進しているが、勢いは

図表1. 世界経済見通し (2023年10月)



(注) 2023年以降は予測。インドは財政年度ベース
 (出所) IMFの資料を基に、しんきん投信作成

図表2. 前回7月の見通しとの比較



(出所) IMFの資料を基に、しんきん投信作成



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
 Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
 〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

弱い」との見方を示しました。

世界のインフレ率については、2022年の8.7%から2023年に6.9%、2024年に5.8%へと鈍化していく見込みです。ただ、2023年と2024年のインフレ率は、それぞれ0.1%ポイント、0.6%ポイント上方改定されており、インフレ率は大半の地域で2025年まで目標とする値まで戻らない見通しです。

□ 米国の見通しを引き上げ

米国の成長率見通しについては、堅調な設備投資と消費の拡大などから、2023年は0.3%ポイント引き上げ2.1%、2024年は0.5%ポイント引き上げ1.5%としました。

中国については、不動産危機と外需の低迷を背景に、2023年の成長率を0.2%ポイント、2024年は0.3%ポイント引き下げ、それぞれ5.0%、4.2%としました。

ユーロ圏の2023年の成長率見通しは0.7%、2024年は1.2%と、それぞれ7月予想の0.9%、1.5%から下方修正しました。

日本については、ペントアップ（繰越）需要、訪日観光客の急増、緩和的な金融政策、また自動車輸出の回復などから、2023年の予想を2.0%と、0.6%ポイント上方修正しました。2024年は1.0%で据え置かれました。

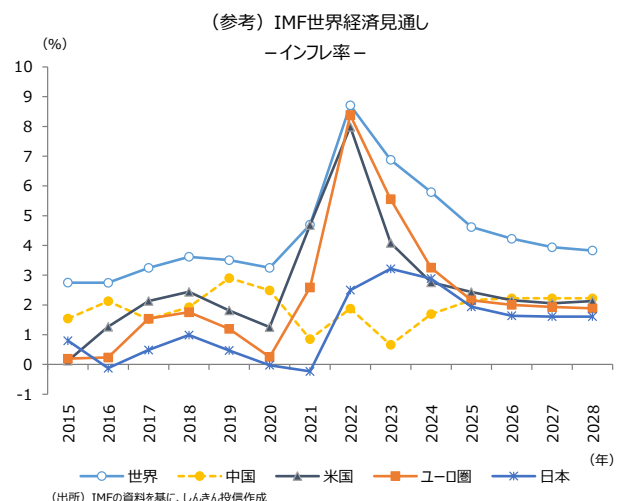
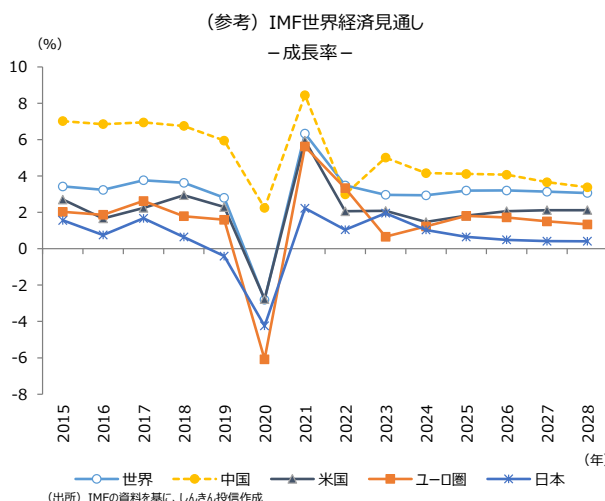
□ 米国の見通しを引き上げ

IMFのベースラインシナリオでは、中央銀行が緊縮的な姿勢を維持する中で、インフレが後退し続けるとしていますが、時期尚早な金融緩和は過去18か月間の措置（金融引締め）の効果を台無しにすることになると注意を促しています。

今後のリスクとしては、

- 中国の不動産危機が一段と悪化する可能性
- 地政学的緊張が改めて高まっていることや、気候変動に伴う混乱により、一次産品価格がより不安定になる可能性
- 基調的インフレ率と総合インフレ率はともに落ち着いてきたものの、依然として高過ぎる水準にあること
- 新興国市場においてリスクが急激に再評価されることで、米ドルがさらに上昇し、資本が流出し、借入コストと過剰債務が増大すること

などを挙げています。



(シニアストラテジスト 鈴木和仁)



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
 〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

- ※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。
- ※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。
- ※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- ※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆ 運用管理費用(信託報酬)・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。